受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成24年度
農林水産大臣賞
「事業所・地方公共団体等」分野
受賞

受賞者名

長崎県漁業協同組合連合会（JF 長崎漁連）

大分県漁業協同組合（JF おおいた）

所在地

長崎県長崎市、大分県大分市

受賞テーマ

漁業者による貝殻を活用した漁場環境改善に向けた取組の展開

1. 活動継続　あり

- 平成 25 年度以降のシェルナース基質の製作本数は、長崎県では 78,000 本増え累計 28.4 万本に、大分県では 27,800 本増え累計 17.8 万本になった。それに伴い貝殻のリユース量も累計で 1,239 トンから 1,708 トン、902 トンから 1,069 トンに増加している。
- JF シェルナースの普及活動では、効果調査を継続的に実施し、漁業者を中心に調査後に報告会を行い、効果を実感してもらっている。
- 小学生を対象とした環境学習の一環として、海中に設置した基質を引き上げ、貝殻に生息している小型生物などを観察する生物観察会を実施している。

漁業者への報告会
（平成 28 年 3 月　長崎県）

効果調査状況
（平成 26 年 4 月　長崎県）

小学校での説明会
（平成 27 年 11 月　大分県）

生物観察会の様子
（平成 27 年 9 月　長崎県）

2.　活動の広がり　あり

- 平成 25 年度以降、効果調査報告会や JF シェルナース説明会に参加した漁業者人数は、長崎県で 687 人増え合計 1,415 人、大分県では 222 人増え合計 682 人となった。
- 貝殻利用研究会は HP を開設すると共に、一般市民向けの食育関連イベントに出展し、貝殻利用技術の普及活動を行った。また、平成 27 年度には新規会員として石川県漁協、岡山県漁連が加入し JF 会員との連携の幅が広がった。

説明会における生物観察会の様子
（平成 28 年 2 月　大分県）

イベントにおける貝殻お絵かきの様子
（平成 28 年 10 月　東京湾大感謝祭）

3.　活動の進化　あり

- 長崎県では、魚介類減少の要因である磯焼け対策などで使われる藻場礁の採用に向けて試験を実施し、平成 26 年度に採用された。設置後の調査では海藻類が順調に生長している様子が確認されている。
- 大分県では、イセエビ資源増大のため県内で初めてシェルナースイセエビ増殖礁が設置され 3 年経過しても多くのイセエビが確認できた。
- 貝殻利用研究会としての活動が評価され、平成 27 年度に第 42 回環境賞、環境市民活動助成（(一財）セブンイレブン記念財団）採択、平成 28 年度には生物多様性アクション大賞入賞など第三者機関による高い評価を受けた。
- シェルナース基質は、平成 28 年度に静岡県リサイクル製品として認定された。

藻場礁に繁茂した海藻（長崎県）

礁内部に集まるイセエビ（大分県）

4.　今後の計画

- 国では漁港・港湾施設を水産資源増殖の場として活用するための指針、事業が推進されており、生物の増殖機能や海藻着生機能、幼稚魚の保護育成機能に優れた JF シェルナースの活用が期待できる。
- 漁業者や水産行政担当者を対象とした研修会を開催し、水産ゼロエミッション研究会会長等を講師に招き、貝殻利用と豊かな海づくり研修会を実施する。
- 効果の実証モニタリングを行い、研究発表などを通じて技術開発を進める。
- 食育関連のイベントで展示を行い、一般の方々へ貝殻技術、里海保全活動の普及を行う。

5.　その他 特記事項

貝殻利用技術は、里海（人手を加えることで生物の多様性と生産性向上に繋げる取り組み）の考え方に合致するものであり、九州地区のみならず全国に普及できると考えている。リユース・リデュース・リサイクルによって、豊かな海づくりに貢献し、海洋環境の改善と共に海の恵みを人々に届けていく。

【表彰概要】

同連合会と同組合は、カキ養殖業等の副産物として発生する貝殻を活用した漁場環境改善に向けた取組を、JF おおいたでは平成 10 年より、JF 長崎漁連では平成 13 年より展開している。

カキ養殖業が盛んな地域においては、養殖業を営む漁業者にとって、毎年発生する貝殻の処理は頭の痛い問題となっており、漁業者団体としてこの貝殻のリユースに取り組んだ。この際に着目したのが、貝殻を使用した人工魚礁（JF シェルナース）であり、これは貝殻を直径 15cm、長さ 1m のメッシュパイプに詰めたシェルナース基質を、鋼材等を使用して組上げたものである。

シェルナース基質には貝殻の隙間にエビやカニなどの魚の餌となる小型動物が大量に繁殖し、人工魚礁部材として活用することで、海洋における生物多様性や生物生産性の向上に貢献することができる。JF 長崎漁連及び JF おおいたでは、このシェルナース基質の製作を漁業者と協力して開始し、その利用に向けた推進や普及活動にも積極的に取り組んでいる。

具体的な活動内容としては、①シェルナース基質の製作指導及び数量・品質の管理、②JF シェルナースの普及活動、③JF シェルナースの効果調査、④環境学習等への参加・展開などである。これまでに製作したシェルナース基質の本数は、JF 長崎漁連で約 175,000 本（平成 14 年～平成 23 年）、JF おおいたで約 140,000 本（平成 10 年～平成 23 年）に至っており、それぞれ 1,059 トン、855 トンもの貝殻がリユースされている。効果調査の実施や漁業者や水産関係者らに対する効果の PR などの推進活動を積極的に展開しており、平成 23 年度におけるシェルナース基質の生産本数は JF 長崎漁連と JF おおいたで全国の 65%を占めている。

また、全国豊かな海づくり大会や一般市民向けの物産展における展示による普及活動、小学生を対象とした基質製作体験学習なども展開しており、地域における豊かな海づくりや貝殻リユースの啓発・教育にも尽力している。これらのような取り組みが評価され、シェルナース基質は、平成 20 年度に大分県リサイクル製品、平成 22 年度に長崎県リサイクル製品としての認定を受けている。

▲集積された貝殻

▲完成した基質の数量・品質確認

▲陸上に引き揚げての公開調査

▲調査後の報告会